

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

熊本県八代市

○学校名

八代市立代陽小学校

○学校のURL

<http://e.yatsushiro.jp/es-taiyo/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 14学級 【特別支援学級】 5学級 【合計】 19学級

○児童生徒数

全児童数459人（平成24年11月13日現在）
（内訳：1年生72人、2年生71人、3年生87人、4年生59人、
5年生80人、6年生90人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校目標】

未来に向かって、助けあい、学びあい、鍛えあう子どもの育成

【人権教育の目標】

一人一人のよさや違いを認め合い、自他を尊重する豊かな感性を育むと共に、身近な人権問題について気づき、考え、解決しようとする実践力を育てる。

○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】 「自他を大切にする代陽っ子の育成」

～ともに学びあい、支えあう集団づくりを通して～

互いのよさや可能性を認め合える集団づくりを通して、自己有用感や他者意識の育成を図り、本校教育目標の具現化につながることを目指し、研究・実践を進めてきた。

これまで実施してきた教育活動を、「互いの思いや考えをしっかりと受け止める態度の育成（人権が尊重される人間関係づくり）」「多様なものの見方、相手意識や他者意識の育成（人権が尊重される学習活動づくり）」「互いのよさや可能性を認め合える態度の育成（人権が尊重される学習環境づくり）」の3つの視点から見直しを図り、相互に関連させて「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の育成を図る取組を行った。

さらに、この3つの視点がすべての授業の中に成立するような学習計画を立て、どの視点を重点的に取り組むかを明確にし、学校での教育活動の大半を占める授業の質的な改善を図るよう授業実践を積み重ねてきた。

その研究の実績や実施による効果については、本校独自の「人権意識アンケート」や「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」等により評価を行った。

3. 特色ある実践事例の内容

(1) 本校における人権教育を通じて育てたい資質・能力一覧表の作成

学校において人権教育を進めていく際には、人権教育を通じて育てたい資質・能力を、学校全体における系統的な指導内容として、総合的に位置付けることが大切である。しかし、各教科等やその分野・領域にはそれぞれ独自の目標やねらいがあり、これを達成させることが第一義的に求められる。

そこで、各教科等の目標やねらいを達成しながら、人権教育を通じて育てたい資質・能力を育てていくことを、本校の授業づくりの基本的な考え方としている。研究を進めるに当たって、人権教育の指導方法等の在り方について「第三次とりまとめ」と本校の児童の実態をもとに、本校における人権教育を通じて育てたい資質・能力一覧表を作成し、児童の発達段階に応じて求める児童の姿を設定するとともに、「授業づくりのチェックポイント」や「教師の人権感覚4カ条」を作成し日々の教育活動の中で実践を積んできた。



<本校における人権教育を通じて育てたい資質・能力一覧表>

	[第三次とりまとめ]から	資 質・能 力	求める児童の姿		
			1・2年生	3・4年生	5・6年生
知識的側面	人権尊重の概念	①人権尊重の立場から自分も他者も大切であることがわかる。	自分は大切な存在であることがわかる。	友達も自分と同じ大切な存在であるということがわかる。	すべての人の人権が尊重されなければならないことがわかる。
	人権に関する歴史や現状についての概念	②人権問題を理解し、人権を守ることの大切さがわかる。	差別を受けた人の思いを知る。	あらゆる差別をなくしていくことの大切さを知る。	部落差別をはじめ、様々な差別の、歴史や現状について知る。
	人権課題の解決に必要な概念	③様々な人権侵害を考え、解決に向けてどう行動すればよいかわかる。	友達との関係で困ったときに、どのように行動すればよいかわかる。	学級の人間関係で困ったときに、どのように行動すればよいかわかる。	いじめや差別の解消に向けてどのように行動すればよいかわかる。
価値的・態度的側面	自他を尊重しようとする肯定的な態度	①自分や友達のよさを認め合おうとする。	自分や友達のよいところに気づこうとする。	自分や友達のよさを認め、相手に伝えようとする。	自分の存在、友達存在を認め、よりよい関係を築こうとする。
	他者の思いに共感できる態度	②他者の思いや考えを尊重し、認め合おうとする。	友達の思いや考えを知ろうとする。	友達の思いや考えを理解しようとする。	自分の考えを大切にしながら、友だちの考えも尊重しようとする。
	生活をよりよく向上させ、進んで自立する態度	③仲間と共に生活を向上させようとする。	友達と助け合いながら楽しい生活をしようとする。	友達と協力しながら学級での生活を充実させていこうとする。	集団活動を通して学校生活をよりよくしていこうとする。
技能的側面	互いの相違を認め、受容できる技能	①違いを認め合い、互いを尊重できる。	お互いの違いに気づくことができる。	自分と違った考えも生かそうとすることができる。	自分と違った考えも受け入れ、尊重することができる。
	適切なコミュニケーション技能	②能動的に傾聴し、思いや考えを伝え合うことができる。	話す人の方を向いて最後まで聴き、自分の思いを表現することができる。	人の話をよく聴き、意見を伝え合うことができる。	相手の話をうなずいたり相槌を打ったりしながら最後まで聴き、伝えることができる。
	豊かな関係を築くための技能	③相手の立場に立って思いを共有できる。	相手の思いに気づくことができる。	相手のことを「もし自分だったら」と置きかえて考えることができる。	相手の立場に立った言動をすることができる。
	偏見や差別を見きわめる技能	④様々な偏見や差別を見抜くことができる。	自分たちの生活の中でのおかしさに気づくことができる。	身近な偏見や差別を見抜くことができる。	様々な偏見や差別を見抜くことができる。
	協力的・建設的に問題解決に取り組む技能	⑤話し合いによってよりよい解決方法を見出すことができる。	問題解決をするためにみんなで話し合うことができる。	問題解決のために学級全体で話し合うことができる。	よりよい方法を探りながら話し合い活動を進めることができる。
	情報から建設的に問題に取り組む技能	⑥多面的に物事をとらえ、科学的・客観的に判断することができる。	いろいろな考え方や見方があることに気づくことができる。	物事にはいろいろな考え方や見方があることに気づき、認めることができる。	様々な角度から物事をとらえ、科学的・客観的に判断することができる。

(2) 【互いの思いや考えをしっかりと受け止める態度の育成】(人間関係づくり)の実践例

人間関係が緊密で規律ある集団を育成するために、道徳の時間・特別活動の授業や日常の活動を通して、互いのよさや可能性を認め合えるなかまづくりを行った。

ア 人間関係を豊かにする集団づくりの取組

(ア) 縦割り活動

縦割り活動では、異年齢集団での活動を通して全校で子どもの人間関係づくりに取り組むことができた。上級生は、お世話をする相手を特定することで自己肯定感・自己有用感を獲得することができるようになった。また、下級生も上級生をモデルとして育っていくことができた。自己有用感の高まりにより、人とかかわることに意欲や関心が持てるようになってきた。

(イ) おひさま給食（全校たてわり給食）

毎月2回（第2・4水曜日）の給食時間に「おひさま給食」を実施している。1年に1回は、各縦割り班でランチルームでの給食を実施している。上級生としての自覚を高め、下級生を楽しませ、責任をもって役割を果たそうとする姿が見られるようになってきた。



（おひさま給食：全校縦割り活動）

(ウ) 全校縦割り遊び

「おひさま給食」の後の昼休みに全校縦割り遊びをしている。回を重ねるごとに、高学年が低学年に優しく接する姿が多く見られるようになった。また、いろいろな行事でも他の学年と仲良く、一緒に遊ぶ姿が多く見られるようになってきた。

イ 豊かな人間関係を育む活動の取組

(ア) 集会活動の充実

学年・学級の枠を超えた児童会活動では、人とのふれあいを大切にしながら、対話や交流を大切にしていた活動を行っている。



（集会活動）

(3) 【多様なものの見方、相手意識や他者意識の育成】(学習活動づくり)の実践例

確かな学力を育成するために、他者と交流し学びを共有する授業展開を通して、一人一人を大切にしたい授業づくりを行った。

ア 人権尊重の視点に立った授業づくり

授業においては、常に以下の3つの視点を意識した授業を実践している。さらに、どの視点を重点化して取り組むのかを明らかにした授業づくりを行った。

視点1：人権が尊重される人間関係づくり

○共感的人間関係を育てるための手立ての工夫

○他者との共感的なかかわりを通した豊かな人間関係の構築

視点2：人権が尊重される学習活動づくり

○互いの意見や考えが尊重される学びの場の工夫

○他者の考えや表現の仕方の違いを受け止めながら、自分の考えとすりあわせていく学び合いの工夫

視点3：人権が尊重される学習環境づくり

○すべての子どもにとって分かりやすい学習環境の工夫

○一人一人の教育的ニーズに配慮した学習環境づくりの工夫

イ 学び合いの場を大切にした学習展開の工夫

(ア) ペアリスニング

学び合いの中で、互いに相手を意識させ、一人の活動量を十分に確保できるペアリスニングを取り入れた授業づくりを行っている。相手の考えを能動的に聴き、その考えについてどう思うのかも加えて伝え合うペアリスニングを、短時間でも授業の中に位置づけている。



(ペアリスニング)

(イ) あいあいタイム

授業中における学び合いがスムーズに行われるように、毎週火曜日の朝自習時間を「あいあいタイム」として位置づけ、全校一斉に取り組んでいる。この時間は、児童のペアリスニングのスキルアップをねらうとともに、児童の意見を聴き、つないだりもどしたりしながら、支持的風土の中で意見交換を進める教師のコーディネート力の向上もねらっている。



(あいあいタイムの様子)

(4) 【互いのよさや可能性を認め合える態度の育成】（環境づくり）の実践例

児童一人一人の持ち味や可能性が発揮できる校内・教室環境づくりをするために、授業及びその他の教育活動において個々の教育的ニーズに応じた支援を工夫していくことを通して、互いのよさや可能性を認め合える集団づくりを行った。

ア 「めあて学習」の共通実践

学習の見通しがもてるように毎時間「めあて」を板書する。その際、めあてを囲んだ黄色の線を児童はノートに赤線で囲むようにした。



(返事を促すカード)

イ カード提示による支援（個人向け）

「はい」、「です・ます」など、授業中に指導が必要と予想されるものをカードにしている。言葉による指導では授業が中断してしまうことがあるためカードにすることで授業の流れを止めることなく児童に意識させることができた。



(学習形態を示すカード)

ウ カード提示による支援（学習形態）

個人からペア、グループへと思考を広げたり、全体の考えをグループや個人へ戻したり学習形態を変化させる時に黒板にカードで示している。座席の移動方法や役割分担の方法なども工夫している。

エ 日常的な環境づくり

(ア) おひさまコーナー（人権コーナー）

本校で取り組んでいる様々な活動を紹介したり児童の作品を掲示したりする場

を校内の2ヶ所に設けている。

(イ) よかところさがし

各学級で友達のよさを認め合い、伝え合う場として全校共通で「よかところさがし」をしている。

(5) 授業実践例

○5年道徳

○主題名 4－(2) 公正公平・正義

○資料名 「語り部さんからのメッセージ」 (自作教材)

○本時の学習

【ねらい】

- ・水俣病の語り部の方が受けてきた偏見や差別を見抜き、身の回りにある差別や偏見をなくすために行動しようとする心情を高める。

【人権教育を通じて育てたい資質・能力】

- ・差別を受けてきた方の思いを知り、その思いに共感する (知識的側面)
- ・身のまわりにある様々な差別や偏見を見抜き、それをなくすためにはどうすればよいかを考える (技能的側面)

過程 時間	学 習 活 動	学習形態			主な発問等(◆)と予想される児童の反応(◇)	留意点(・)、支援の工夫(○) 評価(★)、育てたい資質・能力(☆)
		個	グ	斉		
つかむ 3分	1 差別や決めつけの経験について事前にとったアンケート結果を提示する。			●	◆学級の中で、まちがった見方や決めつけた見方で見られていて、いやな思いをしたということが何度かありました。今日は「人とかかわり合い方」ということについて考えてみましょう。 ◇そういえばそんなことがあったな。	○学級で日常起こっている事象を想起させ、本時の学習では、そのことについて考えることを告げ、意欲付けを図りたい。 ○本教材を作った教師の思いや考えてほしいことなどを告げ、学習意欲につなげたい。
人とかかわり合い方について考えよう						
かんがえる 20分	2 杉本 雄(たけし)さんのお話をVTRで視聴する。			●	◆水俣病患者である杉本さんが周りの人からどう見られ、どんなことをされてきたのでしょうか。「人とかかわり合い方」ということを考えながらVTRを見ましょう。 ◇人とかかわり合い方ってどういうことだろう。	・映像を見る前に、教材にした経緯や教師の思いなどを告げ、学習意欲につなげたい。 ○映像の内容を、板書で確認していくことによって、話の内容が残るようにする。 ○板書の内容で確認しながら、具体的にどんな偏見をもたれていたのか理解させたい。
	3 映像をもとに、「人とかかわり合い方」ということについて考える。 (1)杉本さんは、どんな偏見をもたれていたのか確認する。 (2)山の人か海の人に対する偏見をもっていた理由を考える。 (3)いわれのない差別をされた、杉本さんの気持ちを考える。 (4)杉本さんが子どもたちに伝えたいことを考える。			●●●●	◆杉本さん(漁師さん)は、どんなまちがった見方をされていたのでしょうか。 ◇人間として見られていなかった ◇知識が低い、言葉も乱暴、考え方が雑と言われている ◇発言しても受け入れられなかった ◆どうして山の人たちは、海の人たち(漁師さん)を、そんなまちがった見方で見ていたのでしょうか。 ◇漁師の本当の正しい姿を分かっていなかったから ◇真実の姿を知らずに勝手に決めつけていたから ◆病気になった後も、いわれのない差別をされた杉本さんはどんな気持ちだったのでしょうか。 ◇つらい気持ち、悔しい気持ち ◇まちがっている。◇分かってほしい。 ◆こんなことが起きないようにするために、どうすればよいのでしょうか。杉本さんの願いを考えましょう。 ◇相手の真実の姿を理解して、相手の気持ちを思いやり、決めつけることなく誰に対しても同じ心で接することを忘れずに生きてほしい。	○意見が出にくい場合には、ペアで意見交換をし、考えをまとめさせるようにしたい。 ・杉本さんの言う「山のもん、海のもん」の間に、もともとあったまちがった見方はなぜ生じたのか考え、そこから差別が生じていたことを確認させる。 ・そのときの杉本さんの気持ちを考えさせることによって、人物の人間理解に役立てたい。 ○ペアで考えを聞き合い、お互いの考えに同意したり、質問したり、付け加えたりしながら、杉本さんの気持ちに近づけるように意見交換させたい。 ☆杉本さんの思いを知り、その思いに共感している。
まなびあう 20分	4 杉本さんと同じような気持ちになったことが、これまでの自分の経験の中になかったか振り返る。 (1)考えたことをシートに書く。 (2)全体でお互いの考えを聞き合い、お互いの思いを共有する。	●		●●	◆まちがった見方をしたことや友だちをきずけたり、自分がきずつけられたりしたことはなかいか思い出し、それをなくすために何ができるかを考えましょう。 ◇今まで、友だちの本当の姿を分かっていなかったから、これからは分かることができるように努力したい。 ◇相手の気持ちを思いやって、これからは、友だちとなかよくして、仲間ははずしなないようにしていきたい。	これまでになにか差別したり、差別されたりした経験はないか思い出させ、それをなくすために自分に何ができるのかを、杉本さんの願いと重ね合わせながら考えさせたい。 ○経験を思い出せない子には、事前アンケートをもとに思い出しながら書けるようにしたい。 ★☆杉本さんが受けてきた偏見や差別を見抜き、身の回りの差別をなくすために行動しようとする心情が表れている。(シート・発表)
	5 教師の話を書く。			●	◆公正、公平な態度で生活することは、だれもが豊かな生活を送るためには必要なことです。一人一人が心がけていきましょう。	・価値の押し付けにならないように留意し、今後の日常生活につながるような意欲付けを行う。

○人権教育で育てたい資質・能力を育成するための具体的な手立て

- ・総合的な学習の時間での水俣に関する調べ学習や、見学旅行等の体験的な活動を通して、差別の歴史や差別解消に向けた取組に対する正しい知識を身に付けさせる。
- ・ペアやグループでの話し合いの時間を十分確保する。お互いの意見を理解し、それを全体の間でも共有できる場を設定する。

《実際の授業での工夫》



視点1（互いの思いの共有）



視点2（ペアリスニング）



視点3（分かりやすい板書）

公正公平・正義に関する道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度を養うために、総合的な学習の時間で行った水俣環境学習と密接に関連を図りながら指導を行った。差別の歴史や差別解消に向けた取組に対する正しい知識を基盤として、語り部の方の思いに共感し、公正公平な社会を実現するためにはどうすればよいかについて考えることができた。

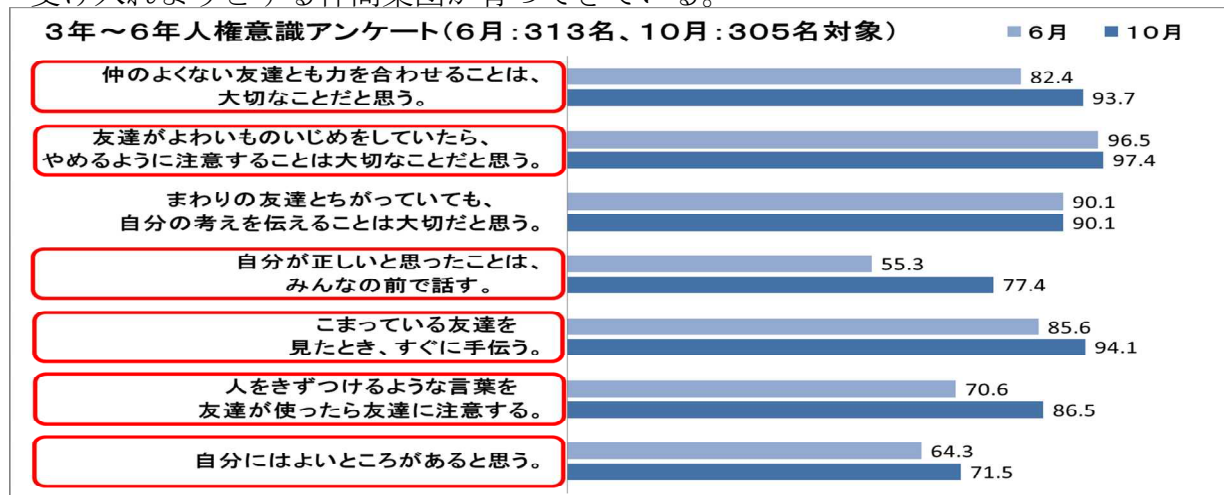
さらに、身のまわりにある様々な差別や偏見について、書く活動や伝えあう活動をして、互いの人間関係をよりよくしようとする心情を高めることができた。

4. 実践事例の実績、実施による効果

本年度6月と10月に3年～6年までの「人権意識アンケート」や「学級集団の傾向を把握するためのアンケート結果」（6年）・「全国学力・学習状況調査」を基に検証を行った結果、次のような効果が見られた。

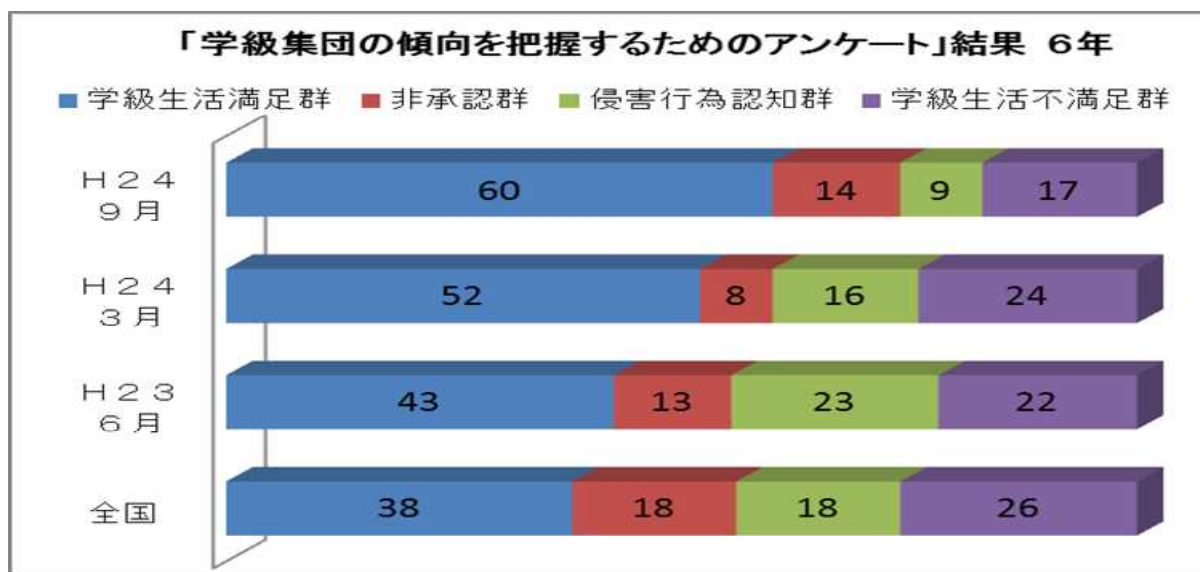
（1）「互いの思いや考えをしっかりと受け止める態度の育成」の取組において

○高学年の人権意識アンケートでは、自他を大切にする項目などで数値が向上している。「認められた」「ほめられた」という経験が存在価値を高め、自分の気持ちを伝えたいという気持ちが生まれ、以前に比べ自己表現力が高まった。また、友達の思いを受け入れようとする仲間集団が育ってきている。



(2)「多様なものの見方、相手意識や他者意識の育成」の取組において

- 6年生の「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」結果を分析してみると、学級生活満足群の割合が、5年時の6月から同3月、6年時の9月と時間の経過とともに増加している。授業改善と合わせて、日常の様々な取組の成果が現れているといえる。特に、6年生になってから、縦割り班活動のリーダーとして教師から認められたり、下級生から感謝の言葉をもらったりすることで、自己有用感が増してきていることが理由として挙げられる。
- 全国学力・学習状況調査の教科に関する調査では、国語・算数の両教科のA問題・B問題とも全国平均及び県平均を上回っており、特に国語B問題においてはその差が大きい。「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」の結果と関連させて考えると、支持的風土の中で学級生活に満足している児童の割合が大きいことが学力向上に影響を及ぼしていると考えられる。



(3)「互いのよさや可能性を認め合える態度の育成」の取組において

- 個に応じた支援を行ったことで、児童の授業への参加がスムーズになり、進んで学習に取り組めるようになった。
- 学習のきまりや生活目標の取組の重点を短いフレーズで掲示したことで意識化が進み、児童が相互に声を掛け合う姿がみられるようになった。
- これまでの形式的な掲示から児童の目線を意識した動的な掲示に変えたことで、掲示物と自分たちの生活を関連付けて考える児童が増えてきた。

5. 実践事例についての評価

(1) 取組についての評価

- 課題であった自己有用感、他者意識、よりよく生活をしようとする態度等は、人権意識調査から全体的に向上が見られた。特に6年生においては、縦割り活動で認められたり、感謝の言葉をかけられたりすることで自己有用感の高まりがみられた。日常の生活においても児童の変容を感じることができた。
- ペアリスニングに取り組むようになって、相手の話を集中して聴くようになった児童が増えてきた。また、話し合い活動に積極的に参加するなど、学習意欲の高まりが感じられる。

- 中・高学年の人権意識アンケートでは、ほとんどの項目で数値が向上している。特に、「自分が正しいと思ったことは、みんなの前で話す」では、6月の調査で全体の約半数にとどまっていた数値が、10月の調査では7割以上となっている。これは、学び合いの中で、自分の意見が尊重されていることはもちろん、他者の意見を能動的に聴くという態度が育ってきていることの現れである。

(2) 教師の変容

- 「教師の人権感覚4カ条」や「授業づくりのチェックポイント」等を活用した共通実践により、児童の痛みやつらさに共感しようとする姿勢や児童とじっくり話し合う姿など、一人一人を大切にしたい人権が尊重される学校づくりを進めていこうとする意欲が高まった。
- 児童の発達段階に応じた「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の一覧表を作成し、目指す児童像を明確にした学習活動づくりや人間関係づくりに取り組んだことにより、児童の意見を大事にした学び合いを促す教師のコーディネート力など、実践的指導力の向上が見られた。
- 研究内容についての情報交換に加え、学習指導・生徒指導に関する情報交換がさかんに行われるようになり、教職員同士がしっかりとつながろうという意識が醸成されてきた。

(3) 実践上の課題

- 児童の学び合いの姿がどの学級でも盛んにみられるようになってきたが、まだまだ一方的な伝え合いになっている場面もあり、学習の高まりを目指していくためには、今後も教師のコーディネート力のさらなる向上を図る必要がある。
- 今後も資質・能力の3つの側面（知識的側面、価値・態度的側面、技能的側面）をどのように育てていけばよいかという観点で授業を創造し、「自他を大切にする代陽っ子の育成」を目指して実践を積んでいきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

八代市立代陽小学校

「自他を大切に作る代陽っ子の育成」という目標の下、人間関係づくり、学習活動づくり、学習環境づくりに取り組んでいる。自前のものを含めたアンケート類を活用しながら、人間関係プログラムの実施を見定め、縦割り活動、集会活動、授業でのペア学習や学び合い等、多彩な活動を展開している点が特徴である。人権課題としては、水俣病がテーマとして取り上げられており、総合的な学習の時間などを活用して展開されている。同校の実践は、水俣病の問題を通して、偏見や差別についての学習を深めていくことを特徴としている。水俣病の学習では、当事者からも話を聴いた上、公平公正・正義などの観点に立って自分たちに何ができるかを考えようとしている。さらに教員の成長についても、「教師の人権感覚4カ条」や「授業づくりのチェックポイント」などを学校として立て、問題意識を共有しながら取り組めるシステムをつくっている。